

英語教育の在り方に関する有識者会議  
英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会  
審議のまとめ

平成26年7月

英語教育の在り方に関する有識者会議  
英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会  
審議のまとめ

【目 次】

1. 本文	1
・経緯	1
・基本的考え方	2
・具体的方策	4
・安河内委員提出資料	7
2. 審議のまとめ 概要	8
3. 参考資料	14

## 1 経緯

- グローバル化に対応した人材育成において、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に学び、英語によるコミュニケーション能力を育成するためには、各技能が適切に評価されることが重要である。一方で、現在実施されている入学者選抜においては、英文の理解や語法・文法などの言語に関する知識を問う問題を中心とした「読むこと」又は「聞くこと」の2技能を評価するものが多く、その在り方が生徒・学生の学ぶ意欲や教員の指導の在り方等に大きく影響を与えているとの指摘がある。
- このような指摘に対し、今後の英語教育の方向性がとりまとめられた、『『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』（平成15年3月）及び「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的方策」（平成23年6月）において、大学及び高等学校入学者選抜における資格・検定試験の活用の促進が指摘されてきたが、その趣旨の理解とともに活用は十分には進んでいない。
- そのような状況の中で、教育再生実行会議において、平成25年10月に第4次提言（「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」）が取りまとめられた際には、大学教育を受けるために必要な能力判定のための新たな試験（達成度テスト（発展レベル）（仮称））の導入に当たり、外国語、職業分野等の外部検定試験の活用を検討することが指摘された。
- その後、文部科学省において、平成25年12月に「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が公表され、同計画において示された方向性について、その具体化に向けて専門的な見地から検討を行うため、平成26年2月に「英語教育の在り方に関する有識者会議」が設置された。
- 同会議の下に、英語教育に係る入学者選抜の在り方を検討する「英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会」が設置され、①英語力の評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用に関する基本的考え方、②具体的な今後の活用推進方策について検討を行った。

(これまでの審議状況)

平成26年6月4日 第1回

- ・主な論点(案)審議
- ・「英語力の評価及び入試における外部試験の活用について」意見発表(佐々木委員)
- ・「大学入学者選抜に外部試験を導入する現実的方法」意見発表(安河内委員)
- ・大学教育レベルにふさわしい英語力の評価について(吉田主査)
- ・竹岡広信氏(英語講師)よりヒアリング

平成26年7月4日 第2回

- ・審議のまとめ(案)審議

- 小委員会で審議している内容は、有識者会議へ報告した上で幅広く意見をいただきながら、全体の審議の取りまとめに反映することとする。

## 2 基本的考え方

- 社会経済のグローバル化が急速に進展し、以前にも増して様々な分野で英語力が求められる時代になっており、総合的な英語力を身に付けることは、我が国の子供たちが各界で活躍する可能性を大きく広げるとともに、日本の国際競争力を高めていく上での重要な要素になっている。

- このような環境の中で、総合的な英語力を向上するためには、世界標準を視野に入れた目標設定を行うとともに、小・中・高等学校を通じてコミュニケーション能力に必要な「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能が総合的に育成され、その各技能が適切に評価されることが必要である。

また、高等学校、大学へ進学を希望する者については、中学校・高等学校の授業等を通じて卒業時まで育成された4技能が、高校及び大学入学者選抜においても適切に評価されることを基本として今後の英語に関する入学者選抜を改善していくことが重要である。同時に、入学者選抜における評価の内容・方法と、中学校・高等学校在学中の4技能を総合的に身に付けるための英語学習や入学後の海外留学等に必要となる英語力との連続性・親和性が確保されていることが重要である。

○ 学習指導要領を踏まえた中学校・高等学校における英語教育と、大学及び高等学校入学者選抜との整合性を確保しつつ、コミュニケーション能力の育成に必要な4技能をバランスよく伸ばすことができるよう、各大学・高等学校の教育理念・内容等に応じた入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を踏まえつつ、既に広く認められている資格・検定試験を活用することは意義のあることと考える。

○ 資格・検定試験を活用する際は、その有効性と課題を明確にした上で、生徒・学生が自ら主体的に学び、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る一つの客観的な指標として4技能をバランスよく測ることができる効果的な試験を活用することとする。

（資格・検定試験の有効性）

- ・ 4技能の総合的な測定
- ・ 試験の一貫性、実施可能性の確保
- ・ 生徒・学生の英語学習への動機づけとして活用（生涯にわたり主体的に学習に取り組む態度の育成）
- ・ 「聞く」、「話す」を中心に教員の指導改善の手段となる 等

（資格・検定試験の課題）

- ・ 目的、難度、換算方法、受験環境、実施場所、実施時期、受験費用 等

○ 資格・検定試験の活用にあたり、生徒・学生の意欲・適性等をも含めた多面的・総合的に評価される仕組みや、人間性を養う重要な時期としての生徒・学生生活の意義を踏まえた実施時期について検討が必要である。

○ 今後、英語力の評価及び入学者選抜において、コミュニケーション能力に必要な4技能を総合的に測る資格・検定試験の活用が、次のような具体的な方策を通じて英語教育の改善の促進につながることを期待する。

### 3 具体的方策

#### (1) 資格・検定試験の活用促進

- 資格・検定試験の活用においては、学習指導要領に沿って中学校・高等学校卒業までに学習した4技能が総合的に育成されているかという観点から適正に評価することが必要である。
- そのような観点から、生徒等の英語力を客観的に把握するため、
  - (1) 国による資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力調査を進めるとともに、
  - (2) 4技能を測定する資格・検定試験のうち、CEFR<sup>1</sup>との関連を考慮しつつ、
    - ・国際的に広く受け入れられている試験
    - ・国内で開発され広く受け入れられている試験を、在学中の英語力の評価や入学者選抜において積極的に活用することを促進する。
- 資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力調査を通じて、日常的な学習による生徒の英語力の測定及び学習状況に係る現状・課題を把握・分析し、それらの結果を活用することにより、生徒の学習意欲を喚起するとともに、教員の指導改善に活かすことにつなげる。
- 各大学等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）との整合性を図ることを前提に、各大学の入学者選抜における資格・検定試験の活用を奨励する。このため、大学入学者選抜における具体的な活用方策として、後述の協議会（仮称）において大学入試センター試験や各大学の個別学力検査の成績と資格・検

---

<sup>1</sup> CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」）は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て2001年に欧州評議会が発表。

定試験の結果を公正に比較して換算する方法<sup>2</sup>等を検討する。

○ また、義務教育段階である中学校までの成果を測る高校入学者選抜における資格・検定試験の活用の在り方と大学の入学者選抜の違いを含め具体的な活用方法を検討する。

○ 併せて、協議会（仮称）においては、4技能の総合的な育成及び適正な評価の観点から、入学者選抜における資格・検定試験の活用に関する有効性や留意すべき点について具体的な指針を提示し、生徒・学生の英語力も踏まえた多様な資格・検定試験の活用を奨励する。

（例）

- ・ 学習指導要領に沿った4技能の能力との親和性と測定可能性
- ・ 評価の妥当性（語彙レベル、使用言語領域、出題意図等）
- ・ 多様な生徒・学生の能力への適合性
- ・ 妥当な換算方法（例：出願要件、みなし満点、点数換算等）
- ・ 受験のしやすさ（経済的状況に配慮した受験料・支援、地域バランスに配慮した実施体制、C B Tを含めた試験形態、受験回数等）
- ・ 適正・公正な試験実施体制（試験監督、情報管理等）
- ・ 国際的な通用性 等

○ 資格・検定試験の活用促進及び客観的な質保証を図る観点から、資格・検定試験が大学・高等学校等において適切かつ効果的に活用されるための環境整備として、大学、高等学校、中学校関係者、資格・検定試験の関係団体及び専門家が参画する協議会（仮称）を設置し、次期学習指導要領の改訂までに一定の方針として、前述のような指針等の具体的な検討、国際水準となっているC E F Rとの関係を考慮した4技能を測定する試験としての妥当性に関する検証や、それら結果の情報発信等をスピード感をもって行う。

---

<sup>2</sup> 例えば、4技能を測る資格・検定試験と大学入試センター試験の得点換算表を作成し、受験者は資格・検定試験と大学入試センター試験のいずれか点数の高い結果を各大学に提出できる仕組みや、各大学の個別学力検査を代替することなどが考えられる（安河内委員提出資料）。資格・検定試験の活用事例としては、出願要件、いわゆる「みなし満点」、点数加算、基準点を設ける方式、判定優遇などがある。

- また、「達成度テスト（基礎レベル）（仮称）／（発展レベル）（仮称）」について具体的な検討を行う際には、前述のような取組を参考に資格・検定試験の活用の在り方について検討することが望まれる。その際、資格・検定試験で測る4技能のみならず、高校までに育成すべき多様な資質・能力の重要性も踏まえる必要がある。
  
- さらに、資格・検定試験を効果的に活用する次のような奨励策を推進し、具体的な先進事例を普及する。
  - ・ 入学者選抜又は在学中から卒業時までの英語力の評価において、資格・検定試験を効果的に活用する先進的な取組への支援とともに、事例を普及する。
  - ・ スーパーグローバルハイスクール等の国際的に活躍する人材を育成する高等学校において、生徒の英語力の測定に資格・検定試験の活用を奨励する。
  - ・ スーパーグローバル大学等の取組において、大学入試改革の観点から資格・検定試験の学部入学者選抜における積極的な活用を求めるとともに、学生のコミュニケーション能力の測定・把握、向上のための取組を推進する。
  
- (2) 大学及び高等学校入学者選抜における学力検査等の在り方の改善
  - 学習指導要領に沿った英語の4技能を総合的に評価する学力検査等を奨励するため、前述の協議会（仮称）において現状の学力検査等における英語問題の在り方の調査・分析等を行い、得られた結果が大学、高等学校等において活用が図られるよう広く情報発信等を行う。

## 4 技能外部試験 ⇔ センター試験 得点換算案

※ 満点の200点以外の換算得点に関しては本番の得点と、どちらか点数の高い方を提出することができる。

※ 高校2年次1月以降に受けた4技能外部試験を対象とする。(浪人生等は前年の1月以降に受けたテストのスコア)

※ ( ) 内は1技能において最低クリアしなければならない得点。このスコアを下回っている技能がある場合は合計点を無効とする。

※ 後の達成度テストにおいても、外国語(英語)部分は同様の換算表を作成し、得点換算を可能とする。

※ センター試験の得点はリスニングと筆記の合計250点を圧縮して200点としたものである。

センター試験 LR 圧縮得点	TOEFL iBT (120)	IELTS (9.0)	TEAP (400)	GTEC CBT (1400)
200	70 (12)	6.0 (4.0)	300 (50)	1100 (175)
190	65 (12)	5.5 (4.0)	290 (50)	1050 (175)
180	60 (10)	5.0 (3.5)	280 (50)	1000 (175)
170	×	×	270 (50)	950 (175)
160	×	×	260 (40)	900 (140)
150	×	×	250 (40)	850 (140)
140	×	×	240 (40)	800 (120)

※TEAP、GTEC に関しては、日本英語検定協会・ベネッセからのデータをもとに作成。みなし得点であるために、実際の換算値よりも高めに得点を設定した。また、TOEFL iBT と IELTS に関しては、各大学での設定値や専門家の意見を参考にして設定した。

# 英語教育の在り方に関する有識者会議 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会 審議のまとめ 概要

## 基本的考え方

- ◇ グローバル化が急速に進展し、教育界のみならず、様々な分野で英語力が求められる時代において、総合的な英語力を向上するためには、世界標準を視野に入れた目標設定を行うとともに、コミュニケーション能力に必要な「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能が総合的に育成され、普段からの学習が適切に評価されることが必要。
- ◇ このため、学習指導要領を踏まえた初等中等教育における英語教育と、高校・大学入試や卒業までの英語力の評価において、各学校の入学者受入方針を踏まえつつ、英語の資格・検定試験の活用を促進する。

《参考》英語の資格・検定試験の活用に関する提言等

○教育再生実行会議第4次提言(平成25年10月)

「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」において、大学教育を受けるために必要な能力判定のための新たな試験(達成度テスト(発展レベル)(仮称))の導入に当たり、「外国語、職業分野等の外部検定試験の活用を検討する」。

○第2期教育振興基本計画(平成25年6月) 16-1英語をはじめとする外国語教育の強化

(主な取組)

新学習指導要領の着実な実施を促進するため、外国語教育の教材整備、英語教育に関する優れた取組を行う拠点校の形成、外部検定試験を活用した生徒の英語力の把握検証などによる、戦略的な英語教育改善の取組の支援を行う。

(成果指標) 国際共通語としての英語力の向上

学習指導要領に基づき達成される英語力の目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上, 高等学校卒業段階:英検準2級程度～2級程度以上)を達成した中高校生の割合50%

【平成25年度大学入学者選抜における資格・検定試験の活用状況】

区分	純計	推薦入試	AO入試	一般入試
国立	16 (19.5%)	10 (12.2%)	9 (11.0%)	0 (0.0%)
公立	18 (22.2%)	15 (18.5%)	8 (9.9%)	1 (1.2%)
私立	231 (40.0%)	181 (31.4%)	125 (21.7%)	33 (5.7%)
計	265 (35.8%)	206 (27.8%)	142 (19.2%)	34 (4.6%)

【平成25年度高等学校入試における資格・検定試験の活用状況】

区分	調査対象数	調査対象校数のうち 推薦入試において活 用している数	調査対象校数のうち 一般入試において活 用している数
国立	12校 100.0%	2校 16.7%	1校 8.3%
公立	全国47都道府県 100.0%	0県 0.0%	0県 0.0%

※下段は、それぞれの区分ごとの大学数(国立:82校、公立:81校、私立:577校、計:740校)に対する割合

＜文科省調査より＞

## 具体的方策

- 学習指導要領に沿って4技能が総合的に育成されているかという観点から、生徒・学生の英語力を客観的に把握するため、
  - (1) 国による資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力調査事業を進めるとともに、
  - (2) 4技能を測定する資格・検定試験のうち、CEFRとの関係を考慮しつつ、国内外で広く受け入れられている試験について、生徒等の英語力の評価や入学者選抜において積極的に活用を促進。
- ※ CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」)は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て2001年に欧州評議会が発表。
- 資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力調査結果を活用し、教員の指導改善、生徒等の英語力を向上。
  - ※ 平成26年度「外部試験団体と連携した英語力調査事業」を実施。生徒に求められる英語力(4技能)や学習状況について把握・分析を行うとともに、それらの結果を教員の指導の改善に生かすことにより生徒の英語力向上を図ることを目的として約8万人(約500校)を対象に実施。
- 各大学等の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)との整合性を図ることを前提に、各大学の入学者選抜における資格・検定試験の活用を奨励。このため、大学、高等学校、中学校関係者、資格・検定試験関係団体及び専門家が参画する協議会(仮称)において大学入試センター試験や各大学の個別学力検査の成績と資格・検定試験の結果を公正に比較して換算する方法等を検討。
  - ※ 資格・検定試験の活用事例としては、出願要件、いわゆる「みなし満点」、点数加算、基準点を設ける方式、判定優遇などがある。具体的な例は別紙を参照。
- 奨励に当たり、資格・検定試験活用に係る有効性や留意点などの具体的指針を検討・提示。
  - (例) 指針のポイント
    - ・ 学習指導要領に沿った4技能の能力との親和性と測定可能性
    - ・ 評価の妥当性(語彙レベル、使用言語領域、出題意図等)
    - ・ 多様な生徒・学生の能力への適合性
    - ・ 妥当な換算方法(例:出願要件、みなし満点、点数加算等)
    - ・ 受験のしやすさ(経済的状況に配慮した受験料・支援、地域バランスに配慮した実施体制、C B Tを含めた試験形態、受験回数等)
    - ・ 適正・公正な試験実施体制(試験監督、情報管理等)
    - ・ 国際的な通用性 等
- 協議会等において、前述のような指針等の検討、国際水準との関係を考慮した4技能を測定する試験としての妥当性に関する検証、効果的な活用事例を含めた必要な情報を発信。
- 今後、具体的な検討が行われる「達成度テスト(基礎レベル)(仮称)／(発展レベル)(仮称)」について具体的な検討を行う際には、前述のような取組を参考に資格・検定試験の活用の在り方について検討が望まれる。
- 大学・高校入学者選抜における英語問題の改善を図るため、前述の協議会(仮称)等において現状の英語の学力検査等の在り方の調査・分析等を行い、結果が大学・高等学校等において活用が図られるよう情報を発信。

## ◇生徒・学生の英語力向上における活用例

### <高校の例>

#### > ○○高等学校

コミュニケーション活動を重視した授業において、英検の過去問題を活用。生徒の意欲を引き出す。受験前には、英語科教員とALTで面接指導も実施。

#### > ○○高等学校

スピーチコンテストや短期留学等の取組を進める中で、英語力向上の目標として資格・検定試験を活用

### <大学の例>

#### > スーパーグローバル大学等事業 採択大学

入学時から卒業時における目標を設定し、定期的にTOEFL等の試験を受け、卒業時には、実践的なコミュニケーションが可能なグローバル人材を育成

#### > ○○大学

大学で学習する際に必要とされる英語運用能力を正確に測定するテストを導入し、基準点を設け、入学者選抜の際にすると共に、入学後の習熟度別クラス編成にも活用することで、英語力向上のためのきめ細かな指導を実施

## ◇入試における換算方法等(例:出願要件、みなし満点、点数加算等)の例

### <いわゆる「みなし満点」>

#### > ○○大学 (一般入試)

TOEFL iBT71点以上  
TOEFL PBT530点以上  
英検準1級  
IELTS4技能6.5以上のスコアまたは等級を所持している者については、大学入試センター試験の英語科目を満点とし換算して、合否判定を行う

### <出願要件の一部、英語試験免除>

#### > ○○大学

【自己推薦入試等:免除】

TOEFL68点以上(経済、商学関係)

【英語運用能力特別試験:出願要件】

TOEFL68点以上

(法学・政治学、国際関係)

#### > ○○大学(一般入試)

英検2級以上:英語学力試験を免除

### <点数加算の例>

#### > ○○大学

TOEFL48点以上 5点  
61点以上 10点  
79点以上 25点  
100点以上 50点

#### > ○○大学

英検2級以上 10点  
英検準2級 8点  
英検3級 6点

#### > ○○高等学校

推薦入試において英検3級以上で加算

### <高校入試の例>

#### > 大阪府における取組

入学者選抜においてTOEFL iBT、IELTS、英検のスコア等を一定の得点に換算し、学力検査の英語の得点と比較して高い方の得点を学力検査の得点とする(平成29年度より開始)

# 主な英語の資格・検定試験

試験名	実施団体	受験人数	年間 実施回数	成績 表示方法	出題形式 (*1)	受験料
実用英語技能検定	日本英語検定協会	約235.5万人 (H25実績)	3回	1級～5級(7つ) 合否による表示	R / L / (W) / (S) (*2)	1級 8400円 準1級 6,900円
TOEFL	テスト作成: ETS 日本事務局: CIEE	非公表	30～40回	0-120点 (4技能を各0-30点で評価)	R / L / W / S	225ドル
TOEIC	テスト作成: ETS 日本事務局: CIEE	約230.4万人 (H25年度実績) ※全世界では700万人	10回	10-990点	R / L	5,725円
TOEIC Speaking/Writing	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC	約1.1万人 (H25年度実績)	24回	0-400点	W / S	10,260円
IELTS	ブリティッシュ・カウンシル、 ケンブリッジ大学英語検定機構等 日本英語検定協会 等	約2.4万人 (H25見込み) ※全世界では200万人	約30回	1.0-9.0 (0.5刻み)	R / L / W / S	25,380円
ケンブリッジ英検	ケンブリッジ大学 英語検定機構	国内人数非公開 ※全世界では約250万人	2～3回	上初級～特上級(5つ) 合否、スコア(0-100)、グレード	R / L / W / S	FCE(B2) 19,980円 CAE(C1) 22,140円
GTEC	ベネッセコーポレーション	約2.0万人 (H24実績)	通年	0-1000点	R / L / W / S	12,960円
TEAP	日本英語検定協会	約0.3万人 (H26第1回申込者数)	3回	80-400点 (CEFRLレベル表示もあり)	R / L / W / S	RLSW 15,000円

\*1: R=Reading, L=Listening, W=Writing, S=Speaking

\*2: Wは1級・準1級、Sは3級以上

## (参考)外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

- CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられったりするなどしている。

熟練した 言語使用者	<b>C2</b>	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	<b>C1</b>	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した 言語使用者	<b>B2</b>	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	<b>B1</b>	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の 言語使用者	<b>A2</b>	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	<b>A1</b>	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

# 各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	英検	GTEC CBT	TOEFL iBT	IELTS	TEAP	ケンブリッジ 英検	TOEIC & TOEIC SW
<b>C2</b>				<b>8.5-9.0</b>		<b>Proficiency</b> (CPE: 特上級)	
<b>C1</b>	<b>1級</b>	<b>1400</b>	<b>110-120</b>	<b>7.0-8.0</b>	<b>396</b>	<b>Advanced</b> (CAE: 上級)	<b>1305-1390</b>
<b>B2</b>	<b>準1級</b>	<b>1250- 1399</b>	<b>87-109</b>	<b>5.5-6.5</b>	<b>334</b>	<b>First</b> (FCE: 上中級)	<b>1095-1300</b>
<b>B1</b>	<b>2級</b>	<b>1000- 1249</b>	<b>57-86</b>	<b>4.0-5.0</b>	<b>226</b>	<b>Preliminary</b> (PET: 中級)	<b>790-1090</b>
<b>A2</b>	<b>準2級</b>	<b>700-999</b>		<b>3.0</b>	<b>186</b>	<b>Key</b> (KET: 上初級)	<b>385-785</b>
<b>A1</b>	<b>3級-5級</b>	<b>-699</b>		<b>2.0</b>			<b>200-380</b>

英検: 日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>

TOEFL: ETS [http://www.ets.org/Media/Research/pdf/CEF\\_Mapping\\_Study\\_Interim\\_Report.pdf](http://www.ets.org/Media/Research/pdf/CEF_Mapping_Study_Interim_Report.pdf)

IELTS: プリティッシュ・カウンシル(および日本英語検定協会)資料より

ケンブリッジ英検: ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>

TEAP: 第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

GTEC : ベネッセコーポレーションによる資料より

TOEIC : IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>